

上宮寺通信

第七十八号

お釈迦様の最後の説法

2月15日はお釈迦様が入滅(命終)された日になります。涅槃会(ねはんえ)といわれ、誕生を祝う花まつり(4月8日)、さとりを得られた成道会(12月8日)とともに仏教徒が大切にする日です。

「涅槃」とは蠟燭の炎が吹き消されたような静寂な状態を意味し、すべての苦しみから脱する境地のことを指します。

「人生は苦なり」といわれたお釈迦様。入滅された日は、まさにすべての苦から解放された日として「涅槃会」といわれるのです。

インドにお生まれになったお

釈迦様は35歳で覺りを開かれ、80歳の生涯を終えるまで各地を旅して人々に教えを説いてきました。そんなお釈迦様の最後の説法地となったのがクシナガラという町でした。

高齢であり、また施された食事も合わなかったこともあって、この町でお釈迦様は体調を崩されます。

弱られたお釈迦様は沙羅双樹のもとに横になられました。いよいよ死期が迫っていると感じた弟子のアーナンダは嘆き悲しみ、「お釈迦様が亡くなられた後、私たちはどうすればよいのか」と最後の説法を頼みます。

そのときのお言葉が「自らを灯火(ともしび)とし、自らを依り所とせよ、他を頼りとしてはならない。法を灯火とし、法を

依り所とせよ、他の教えを依り所としてはならない」という「自灯明・法灯明」といわれるものでした。

「自らを灯火とせよ」とは、

自分の人生は自分の足でしっかりと歩めということです。私たちは物事がうまくいっている時は、さも自分がしっかりとやっているような気でいます。しかし、ひとたびうまく事が運ばなくなったり、他人のせいにしてしまったり、社会のせいにしてしまったり、うまくいく時もない時もすべて我が人生としてしっかりと歩む。これが「自灯明」といわれることです。

そして自分の人生をしっかりと歩むにはそれを支える根拠が必要です。お金、友人、家族、

自分自身…、どれも私の人生にとって大切なのですが永遠であるものは何一つありません。唯一、永遠不変なる真理がお釈迦様の説かれた教えである「法(仏法)」です。

「法灯明」とは、そんなお釈迦様の教えを生きる根拠とすることです。仏法に我が身を問いつつ、続けながら歩んでいくことが大切であると「自灯明・法灯明」としてお釈迦様は最後の説法をなされているのです。



◆行事案内

3月8日(土)

春のお彼岸・永代経法要

時間：午前10時～

法要 引き続き 法話

(正午頃終了予定)

法話：林 祥真師(一宮市禮讚寺)

※午後の法要、お斎、呈茶はございません。

※お持ち帰り用の軽食を用意いたします。

○ホームページ、公式LINEも
よろしく願います。



ホームページ

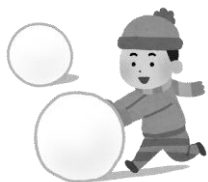


公式LINE

◆話題あれこれ

○気温は低かったですが穏やかだった今年のお正月。元旦の修正会には多くの方にお参りをいただきありがとうございました。恒例のビンゴ大会も盛り上がりました。お正月の天気のように、皆様が穏やかに今年一年を過ごすことができるよう願っております。

○まだまだ寒い日が続きますが春はもうすぐです。「春のお彼岸・永代経法要」を3月8日(土)に勤めます。皆様のご参詣をお待ちしております。



○3月17日～23日まで春のお彼岸となります。八事墓地周辺では3月15日～20日の間、交通規制が行われます。お墓参りに行かれる方はご注意ください。

○今年4月から八事斎場(火葬場)が改修のため、令和10年6月までの予定で全面工事に入ります。名古屋市の火葬場は港区の第二斎場のみとなります。葬儀までの日数はかなり開くなどの影響が出そうです。あまり関係のない話かもしれませんがご承知おきください。

○一時期の流行期間は過ぎたもののインフルエンザにかかる人が多いです。お気をつけてお過ごしください。

【雑感】

東京で「どぜう鍋」を食べる機会がありました。丸い小さな鉄鍋にどぜう(どじょう)が並べられ、割下を注いでネギをたくさん入れて炭火で煮込むというシンプルな鍋。江戸時代から庶民に親しまれた味です。これまでどじょうには馴染みがありませんでしたし、泥臭いイメージがあったのでどんな味なのか心配したのですがとてもおいしくいただけました。行ったお店も江戸時代を思わせるような趣きがあり、気分はタイムスリップした感じ。歴史好きな私としてはとても楽しませてもらいました。(住職記)

【発行】

真宗大谷派

上宮寺

昭和区白金二丁目十九番十五号

☎052-871-0547